

文部科学省補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」

2019年度 連携型共同研究 成果報告書

研究課題名	阪和地域の文化資源に関する学際的研究
研究代表者	菅原 真弓（大阪市立大学 文学研究科 教授）
共同研究者	中島 敦司（和歌山大学 システム工学部 教授） 村田 隆志（大坂国際大学 国際教養学部 准教授）

研究成果

本研究は大阪から和歌山地域（紀伊半島という観点からは奈良県も含みうる）に遺る文化資源の魅力と問題点を、学際的な研究によって明らかにする試みである。大阪（大坂）は古くから経済の中心地域であったため、文化的営為も蓄積され、本研究の視点に基づく「文化資源」も数多く遺る。しかし、研究の蓄積は大阪の北部地域に偏しており、本学の立地する阪和地域の文化資源に関する研究はほとんど見られないのが現状である。そこで本研究では、一つに近世近代の「大阪（大坂）」を描いた絵画作品についての研究を実施する。また阪和地域を活躍の場とした画家の生涯と作品についての検討を行う。さらに紀伊半島の自然景観（植物や遺構などをも含む）の状況と保護についての研究をも加えていくものである。

視覚文化資源についての検討に関する成果を挙げる。研究代表者が専門とする美術史学の立場から、主に幕末から明治にかけての大坂（大阪）を描いた絵画作品に関して研究を進めた。ほとんど一般には知られていないが、江戸時代の大坂においても江戸と同様、浮世絵版画が刊行されていた。研究蓄積が薄いこの分野で、特に大坂を描いた版画シリーズ「浪花百景」について検討した。同タイトルの版画シリーズは2種あるが、本年度は長谷川貞信（初代）が描いたシリーズについて研究を行い、「どこが選ばれたのか」「どのように描かれたのか」「時代的な特徴と先行する浮世絵作品からの影響関係」について分析を加えた。

また加えて、南海電気鉄道が明治32年（1899）に刊行した『南海鉄道旅客案内』（宇田川文海著）を研究対象として加えた。菅原は既に、この書物を中心に据えた展覧会「南海鉄道旅客案内展」（和歌山大学紀州経済史文化史研究所特別展、2015年）を企画実施しているが、改めて内容を精査し、美術史学研究の側面から表紙絵、口絵、挿図写真などを検討した。この成果は本年3月、「『南海鉄道旅客案内』と宇田川文海」というタイトルで学会発表を行う（帝塚山派文学学会）こととしていたが、今般のコロナ禍のため延期となった（本年10月発表予定）。

主な成果物としては「長谷川貞信と「浪花百景」～幕末明治大坂の「記録」（『大坂の「記録」、大阪の「記憶』』報告書、2020年）がある。